

## 南部エリア市民説明会 記録

日 時	令和元年 7 月 13 日（土） 15:00～17:00	場 所	大里コミュニティセンター 大集会室
(内容)			
発言者	発言内容		
	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>(1) 総合政策部長より、熊谷市の公共施設に関する現状と施設再編の必要性について説明を行った。</p> <p>(2) 教育次長より、「熊谷市学校規模適正化」について説明した。</p> <p style="text-align: center;">【主な説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 単学級が熊谷市内 29 校中 8 校あるという現状を鑑みて、熊谷市立学校適正規模審議会を立ち上げ「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定した。</li> <li>➤ クラス替えが可能であること、②委員会や部活動等の選択肢がある状態を適正とし、『小学校 12～18 学級、中学校 9～12 学級』を基準としている。</li> <li>➤ 社会性を高めるために人間関係を構築できることを目的に統廃合を進めることを検討している。子供たちにとってより良い環境を第一に念頭に置いて今後の教育環境の整備を行っていく方針である。</li> </ul> <p>3. 説明・質疑応答</p> <p>(1) 熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取組について（資料 1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有限責任監査法人トーマツより、国の動向及び熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取組について説明を行った。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【主な説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 全国的に、少子高齢化に伴い社会保障費が増加し、施設の更新投資等に使用できる投資的経費が年々減少しており、熊谷市でも同様である。</li> <li>➤ 高度経済成長期に建設した公共施設が老朽化してきており、今ある施設をすべて建て替えるだけのお金はないため、新しい技術導入や施設の複合化を進めて、より良い公共施設の将来像を考える必要がある。</li> <li>➤ 熊谷市の公共施設マネジメントの取組の特徴として、①全庁的・横断的な検討組織を立ち上げ検討している、②5つのエリアに分</li> </ul>		

市職員	<p>け、地域性を考慮して検討を行っている、③市民意見等を適宜取り入れて再編方針案を作成しているという3点が挙げられる。</p> <p>(2) 公共施設再編方針案の概要について（資料2～4）</p> <p><b>【資料2】</b></p> <p>資料2の1ページ「1の再編方針案の基本的な考え方」ですが、（1）これまで策定した「基本方針」や「基本計画」に基づき、老朽化した施設を減らす代わりに、市民ニーズに合致した施設の新設・集約を実施し、同時に公共交通の充実と、民間施設の活用も推進することで、熊谷市の将来を見据えたメリハリのある再編方針案とすることを目指しました。</p> <p>（2）「市民の考え方」の反映につきましては、冒頭での挨拶や資料1での説明のとおり、市民アンケートや、市民説明会、市民ワークショップでのご意見を踏まえて、この案を作成しました。</p> <p>（3）「建物」は減らしても「機能」を存続させ、市民サービスの維持と利用者の活動の場を確保します。</p> <p>（4）会議室などの「専用部分」をできるだけ存続させ、事務室、廊下などの「共用部分」を圧縮し、施設複合化のメリットを生かします。</p> <p>（5）管理運営費のかかる「小規模施設」を廃止・集約し、新しい施設への統合・複合化をすることで、効率的な運営を目指します。</p> <p>（6）修繕費のかかる「老朽施設」を除却し、更新等を推進することで、維持費を節減するとともに、新しい施設によるサービスを提供してまいります。</p> <p>（7）大規模修繕が未実施の施設の場合、総合的に判断して、高額な大規模修繕工事を見送り、新たな施設への更新を進めるほうが有効な場合には、更新時期の前倒しも検討します。</p> <p>（8）「耐震化」を早急に達成することで、利用者の安心・安全の確保を図ります。</p> <p>続きまして、2ページをご覧ください。「2の再編方針案を実行した場合の効果」ですが、現時点の検討・試算では、40年後の延床面積は約33%の削減を見込んでいます。</p> <p>次に、その下の「3 施設分野別の考え方及び主要事業」では、ハコモノ施設を17の分野に分け、施設分野別に、主要施設の今後の方向性を掲げています。検討時に考慮した事項としましては、それぞれの施設の耐用年限や老朽化の状況、大規模修繕等の実施履歴、耐震化の状況、利用者数や稼働率、かかっているコスト、民間も含めた同種・類似の施設の市内での分布状況、集約・複合化する施設間の調整、集約・複合化後の利用者の利用機会・選択肢の確保の可能性、などが挙げられます。</p> <p>なお、記載された年度や期間は、工事等の事業期間ではなく、供用開始や廃止の予定、廃止の見込みの時期です。</p>
-----	--

また、今年度、策定する「個別施設計画」では、国から、起債や交付税措置などの財政支援を受けられることから、計画期間である最初の10年間は、具体的に、年度ごとの各施設の対応を掲載しなければなりません。

その後の11年目以降については、人口推計や施設の状況も変化することから、5年から10年の幅を設けた「第何期」、というような期間で記載しております。

それでは、各施設分野について、説明させていただきます。

まず、(1)「学校施設」では、①学習環境改善のための規模適正化を図るため、小学校優先、児童生徒数の少ない学校優先での統廃合を考えております。②閉校となる学校の体育館は、地域体育館として有効活用を図ります。③学校のプールは、利用日数と老朽化の状態を踏まえ、校外方式の水泳授業の順次導入を考えています。④学校給食施設は、現在のセンターの老朽化の状態を踏まえ、学校間の公平性や効率的な運営を図るため、新センターを整備し、自校式については、順次新センターへ統合していくものです。

学校の適正規模化につきましては、「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」に沿って、小学校は12学級から18学級、中学校は9学級から18学級を基準としています。

以上の方針により、3ページの表に記載しました。詳細については、資料3で説明させていただきます。

3ページの表は、児童生徒数の現状とこれからの推計を基に、取りまとめた「たたき台」として掲載しているものであり、既に決定しているものではございません。

なお、ここに掲げました学級数・児童生徒数は、本年5月の人数であり、実際に統廃合を実施する時点では、更に減少していることを想定しております。

それ以降も、統合案を掲載しておりますが、今後も、児童・生徒数の推移や、校舎の状況も注視しながら、見直し、検討していくものです。

次に、4ページの「(2) 市民文化施設」は、5ページの表のとおり、各エリア・地域の様々な貸館施設等を集約し、エリアごとに(仮称)生涯活動センターを新たに整備することで、拠点的な機能を中核に、多様な機能を整え、幅広い世代が集える、市民活動や社会教育の拠点としていくことを想定しています。

なお、この予定地・候補地については、固まっているものではございません。施設の種類・機能等によって、開発や建築の条件・制約が課せられますので、施設内容を具体的に検討する中で、候補地が決まることをご了解いただきたいと思います。

次に、6ページから7ページの(仮称)地域拠点施設整備事業は、広域的に、施設の統合・集約を進める中でも、地域における必要性を考慮し、

現在の地域公民館等の貸館機能を、地域の小学校等に移転し、体育館とともに、各地域への存続を図るものです。

公民館機能等を引き継ぐ生涯活動センターとともに、役割分担して、現在の施設機能の受け皿とすることを想定しています。

なお、各地域貸館施設の供用開始予定年度は、その前身となる公民館等の存続期間等により違ってきます。

また、老朽化の進んだ公民館の機能移転を想定するとともに、利用実態を踏まえた地域コミュニティセンター等の地元譲渡も想定しています。

資料2の14ページにある「参考資料」をご覧ください。こちらは、学校統廃合と公民館等の再編のイメージです。

左側の「統合前」のA小学校、B小学校が統合した場合、中ほどの「統合後」にあるように、上にある新AB小学校に児童は移ります。B小学校だった児童は、統合後の小学校までの通学距離等を考慮し、必要に応じ、スクールバスで新AB小学校へ通学することを見込んでいます。また、図の右下にある各地域公民館は、右側の中ほどにある、世代間の交流を図ることのできるエリアごとの（仮称）生涯活動センターへの統合を進めるとともに、小規模な貸館部分については、各地域の拠点施設である新AB小学校、及び旧B小学校敷地内等への地域貸館施設の整備等を検討してまいります。現在ある小学校は、閉校となる場合であっても、その後も地域の拠点施設となることを想定しています。

資料に戻りまして、7ページをご覧ください。7ページの「（3）子育て支援施設」のうち、保育所については、現在の保育需要が高い中で、老朽化した保育所の更新を、統合により実施しようとするものです。

また、既存の児童館に替えて、雨天時も子供を元気に遊ばせることのできる（仮称）こどもセンターの整備を想定しています。

総合保育所とともに、蚕業試験場跡地ひろばに、（仮称）総合子育て支援施設としての整備を想定しています。

8ページの「（4）保健福祉施設」のうち、保健センター等の保健施設については、成人保健と母子保健の統合による保健・健康指導サービスの向上、また、業務の効率化の観点から、3つの保健施設の妻沼保健センターへの機能集約を想定しています。

老朽化し、耐震性にも課題のある、休日・夜間急患診療所も、蚕業試験場跡地ひろばの（仮称）こどもセンターへの併設を想定しています。

そうすることで、保育所・児童遊戯施設・急患診療所の併設による相乗効果が期待できます。

次に、「（5）庁舎等」として、本庁舎建替え時には、現在の分庁舎方を廃止し、本庁機能の集約による業務効率化を図る一方で、必要に応じ、（仮称）生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置することで、市民の利便性も確保していく予定です。また、事務所

的な建物についても、業務の効率化や委託化の推進により、順次廃止してまいります。

「(6) 消防施設」は、老朽化・耐震性・災害時の機能維持等に課題のある大里分署と老朽化・耐震性に同様の課題のある江南分署の機能を、南部エリア全体の消防力向上の観点から、移転集約することを想定しています。消防団車庫については、近隣の常備消防施設や地域拠点への併設を検討することとします。

「(7) ホール」は、適切な規模・グレードの施設1か所への集約を想定しています。将来的には、さくらめいと更新時に、規模・再配置・機能などを含めて検討したいと考えています。

9ページの「(8) 図書館」は、人口分布等を踏まえた現状からの再配置を検討することとし、将来的には、西部エリアの図書館整備も想定しています。

「(9) 博物館的施設」は、歴史・民俗、美術、埋蔵文化財のテーマ別の施設再編を検討することとしています。

「(10) 水浴施設」は、アクアピア、健康スポーツセンター、老人福祉センターですが、市民アンケートの結果、老人福祉センターの老朽化も踏まえ、全年齢層向けの屋内型の温水浴と冷水浴が可能な施設：お風呂とプールを併設した施設を整備し、学校のプールの代替機能を確保するとともに、子どもから高齢者にわたり、世代間の交流が期待できる施設とすることを想定しています。なお、スーパー銭湯やスイミングクラブ等の民間施設の利用も検討してまいります。

「(11) 公園・スポーツ施設」では、熊谷運動公園の屋外プールは、老朽化や利用日数を踏まえて廃止し、アクアピアへ機能移転することを想定しています。

更新時期を迎える市民体育館については、くまびあ体育館への機能移転も考慮しながら、市民体育館周辺の再整備を検討していきたいと考えています。

老朽化が進む勤労者体育センターや妻沼運動公園体育館を含む地域体育館は、学校統廃合の進捗に伴う学校体育館からの転用による体育施設の増加を見込み、廃止又は更新を検討したいと考えています。

10ページの「(12) 産業施設」は、利用者・民間・地元等との協議・調整に従って整理・再編します。可能なものは、民間譲渡を検討してまいります。

11ページの「(13) 人権施設」では、春日文化センターや集会所は、耐震性や老朽化、利用者数を考慮しながら存続の可否を検討してまいります。

「(14) 環境施設」は、旧妻沼清掃センターを除却し、その跡地を災害時のストックヤードに想定しています。

「(15) 防災・河川施設」は、水防倉庫等、防災施設のため全て存続させます。

「(16) 公共交通施設等」では、本町駐車場は、収支改善方策を検討しながら、当面存続させることを想定しています。その他の駐車場・駐輪場は存続を想定しています。

12ページの「(17) 葬斎施設」は、今後の利用の傾向を見据えながら、設備の増設等を検討するとともに、指定管理者の導入も検討します。

以上が、施設分野別の方向性・考え方ですが、個々の施設には、耐用年数、建物の状況等の違いがあり、集約する場所やタイミング、方法についても、複数の既存施設の調整が必要であり、開発・建築等に関する課題も残っています。

施設の再編については、本市の人口推計、今後の各エリア・地域の状況の変化も踏まえまして、定期的に、必要があれば毎年度でも、個別施設計画を見直していく予定です。

「4の市民への説明や公表方法」ですが、このようなエリア別の市民説明会を、6月議会終了後から開催しています。

また、今後おおむね10年以内に学校統廃合などで地域・小学校区の施設の機能が、他の地域に移転することが想定される地域を対象として、説明会を開催していきます。

市民説明会で市民の皆様のご意見を伺い、熊谷市にとって、地域にとって、市の施設のあるべき姿はどのようなものであるか、市民の皆様と共に考えてまいります。

資料2の説明は以上となります。

### 【資料3】

続きまして、資料3の施設再配置図について説明します。こちらの資料は、熊谷市全体図で、施設の移転等を示したものです。

こちらの南部エリアを中心に説明します。配置図の一番下にあるオレンジ色をした部分が南部エリアとなります。

ページを1枚めくっていただき、ページの右上に図の1とあるものをご覧ください。「小中学校」の再配置では、小学校の統合として、吉岡小と市田小の統合を、2029年に吉岡小の位置で想定しています。

江南南小と江南北小の統合を 第2期2030年～2034年の期間に、江南南小の位置で想定しています。中学校では、2029年に、吉岡中と大里中の統合を大里中の位置で想定しています。

吉岡小の位置に統合を想定した理由としては、吉岡小の方が、児童数が多く、敷地面積が広いことが挙げられます。また、江南南小と江南北小では、江南南小の方が、生徒数が多く、敷地面積も広いことが挙げられます。

吉岡中と大里中では、大里中の方が、生徒数が多いことが挙げられます。

次に、図の2をご覧ください。図の2 公民館等の「市民文化施設」では、エリアごとに新設する（仮称）南部生涯活動センターを、現在の吉岡中の跡地に第2期の整備を想定しています。

各地域の公民館については、生涯活動センターの整備とともに、現在の建物の耐用年数を踏まえながら、統合していくことを想定しています。

また、それぞれの公民館の機能集約に伴って、各小学校等に地域会館の設置を想定しています。

続きまして、図の3「子育て支援施設・保健福祉施設」をご覧ください。

こちらのエリアでは、保育所施設の耐用年数を踏まえて、保育需要とともに検討するものです。

続きまして、図の4 「庁舎等・消防施設」については、行政センターの本部機能を、第3期2035年から2044年に熊谷市役所に集約し、出張所機能を（仮称）南部生涯活動センターへの導入を想定しています。

また、消防の江南分署と大里分署の統合を、2027年に想定しています。

続きまして、図の5「社会教育施設」については、市内の文化ホール等の集約を想定しています。

また、江南図書館については、南部エリアでの再配置を検討します。

江南文化財センターに、埋蔵文化財を集約し、第2期の2030年から2034年に、（仮称）埋蔵文化財館への改修を想定しています。

続きまして、図6-1「水浴施設」では、プールや老人福祉センターを示すものですが、第3期に、老人福祉センター江南荘と健康スポーツセンターを全ての世代が利用できるプールとお風呂の施設である（仮称）アクアピア3として整備することを想定しています。

また、学校のプールは、校外方式への移行により順次廃止します。

続きまして、図6-2「屋内スポーツ施設」は、閉校後の小中学校の体育館を地域体育館に転用するほか、大里と江南の体育館の更新について検討してまいります。

続きまして、図の7「産業施設」ですが、大里農産物直売所や大里農産物加工施設は、民間譲渡、又は（仮称）道の駅くまがやへの集約を想定しています。

大里穀類乾燥調整施設（ライスセンター）や江南地域食材供給施設の民間譲渡を検討してまいります。

以上が、資料3の南部エリアの施設の再配置となります。

#### 【資料4】

続きまして、資料4各公共施設のフローチャートについて説明します。

こちらの資料は、小学校区、または統廃合を予定する小学校区をグループごとに時系列で、各施設の修繕・統合・移転・廃止等を示したものです。

こちらの南部エリアを説明しますので、16ページをご覧ください。ペ

ページ数はページの右上に記載されております。

こちらは、吉岡、吉見、市田小学校区にある施設についてです。

「①吉見小」は、当面、存続を想定しています。

「学校プール」については、全市的に他の小中学校も同様の考え方ですが、校外方式の水泳授業導入後、順次、廃止・除却を想定しています。

また、「学校給食施設」は、下の「⑧（仮称）第2学校給食センター」の整備等を検討し、新センター整備後は、自校式からセンター方式に切り替えていくものです。

「②（仮称）吉見会館」は、大里ふれあいセンター等からの機能の受け入れも含め、吉見小体育館と併設して、地域拠点施設となることを想定しています。

1つ飛んで「④大里さくら児童クラブ」は、2023年に、「③（仮称）吉見児童クラブ」を整備して移行することを想定しています。

「⑤吉岡小」は、「⑦市田小」との統合を、2029年に、吉岡小の位置で、想定しています。

統合後の「市田小体育館」は、地域体育館としての活用を想定しています。

「⑨（仮称）市田会館」は、大里コミュニティセンター等からの機能の受け入れも含め、市田小体育館に併設とし、地域拠点となることを想定しています。

1つ飛んで「⑪大里第2さくら児童クラブ」は、必要に応じて、「⑩（仮称）市田児童クラブ」として、市田小体育館への併設を想定しています。

「⑫（仮称）南部生涯活動センター」は、市内の各エリアごとに、公民館機能等を集約し、コミュニティセンターや市民活動支援センターとしても利用することのできる生涯学習や市民交流を図るための施設として、新規整備するものの1つです。

現在のところ、吉岡中の跡地等への整備を想定しています。

17ページをご覧ください。2つ飛んで「⑮吉岡児童クラブ」は、当面存続し、第4期に、必要に応じ、「⑭（仮称）吉岡児童クラブ」の地域拠点施設への併設を想定しています。

「⑯大里中」は、「⑱吉岡中」との統合を、2029年に、大里中の位置で想定しています。

「⑱吉岡中」の体育館は、地域体育館として「⑲（仮称）南部生涯活動センター」とともに活用することを想定しています。

「⑳吉岡公民館」は、「㉑老人憩の家 吉岡荘」とともに、「（仮称）南部生涯活動センター」への機能移転を想定しています。

また、「⑬（仮称）吉岡会館」の地域拠点施設への併設を想定しています。

「㉒（仮称）アクアピア3」は、健康スポーツセンターや老人福祉セン

ター江南荘等の機能移転として、小中学校の水泳授業での活用も想定し、整備を検討しています。

「㉓市田保育所」、「㉔吉見保育所」、「㉕子育て広場（にこにこ）」は、当面存続を想定しています。

「㉖大里体育館」は、当面存続し、第4期に更新の可否を検討します。18ページをご覧ください。こちらは、江南南、江南北小学校区です。

「①江南南小」は、「⑤江南北小」との統合を、第2期後半に、江南南小の位置で想定しています。

「②熊谷運動公園屋内プールのアクアピア」は存続とし、江南地域の小中学校の水泳授業の受入れ先としての活用も想定しています。

「③江南南児童クラブ」、「④第2江南南児童クラブ」は、存続を想定しています。

「⑤江南北小」の体育館は、統合後、地域体育館としての活用を想定しています。

1つ飛んで「⑦江南総合文化会館ピピアの江南公民館」は、当面存続し、「⑥（仮称）江南北会館」と「（仮称）南部生涯活動センター」への機能移転を想定しています。

「⑨江南北児童クラブ」は、第3期に、「⑧（仮称）江南北児童クラブ」として、江南北小体育館への併設を想定しています。

1つ飛んで「⑪江南学校給食センター」は、第2期後半に、必要に応じ「⑩（仮称）第2学校給食センター」を整備し、移行することを想定しています。

1つ飛んで「⑬江南保育所」は、2027年に、新設の「⑫新江南保育所」と記載しておりますが、実質的には建替えを想定しています。

「⑭江南幼稚園」は、今後、存続の可否等を検討します。

19ページをご覧ください。「⑮江南中」は、当面存続を想定しています。

「⑯（仮称）アクアピア3」は、健康スポーツセンター等の機能移転として、小中学校の水泳授業での活用も想定し、整備を検討しています。

「⑰吉岡中」は、2029年に「大里中」との統合を想定し、その跡地は、「⑱（仮称）南部生涯活動センター」としての整備を想定しています。

「⑲江南農村センター」は、第2期後半に、「⑱（仮称）南部生涯活動センター」に機能移転することを想定しています。

「⑳江南公民館」は、第4期以降に、公民館機能は「⑱（仮称）南部生涯活動センター」に移転しますが、地域の活動の拠点として「㉑（仮称）江南南会館」の江南南小体育館への併設を想定しています。

「㉒江南農業総合センター」は、2021年に、廃止し、除却を想定しています。跡地は民間による活用も見込まれます。

「㉓江南農業研修センター」は、地元との協議により、その承諾が前提

<p>市民</p>	<p>となりますが、地元譲渡を想定しています。</p> <p>「④江南体育館」は、当面存続し、第3期に更新の可否を検討します。資料4の説明は、以上です。</p> <p>(3) 質疑応答</p> <p>適正規模という言葉が何回か出てきました。この適正という問題が非常に曲者だと私は教員を30数年間やってきた経験から、非常に気になります。適正というのはどういう意味を持つのか。つまり、ここでいう規模であれば学力が上がるのか、あるいは、小規模校では学力が下がっちゃうのか、だから学力が上がる規模が適正なのか、あるいはいじめがそういうところはなくなるのか、みんなが仲良くなれるようになるのか、適正規模という言葉で小規模校を悪者になっている、そういう印象がぬぐえません。教育というのは経営の論理ではないはずですので、ほかの施設と同様な考え方で統廃合を進めていくというのは、非常に危険に感じます。次長さんがどういう経歴の方か存じませんが、ほかの施設と教育を同列で扱うというのはいかがなものかという風に思いますので、その例の一つとして適正規模、そして小規模校では、学力が下がってしまうのか、いじめが増えちゃうのか、不登校がもっと増えちゃうのか、どう見ても逆のような気がするのですが、適正規模というのはそういう視点から、教育の視点からは適正という言葉を実際の意味で使っているのだろうか、まじめに考えているのかどうか、私は不真面目にしか思えません。小規模校のほうがはるかに、子どもたちが仲良く、そしていじめもなく、学力もしっかり上がってきます。先ほどの中でクラス替えが可能ということ、クラブと部活動のこと、それしか説明がありませんでしたよね。部活動についても小さな学校が弱いのか、そんなことはないですよ。私自分の経験で分かります。ですから適正規模という言葉、極めて不適切だと私は思いますので、その辺の問題をしっかりと、教育者の視点から、説明をしてください。以上です。</p>
<p>市職員</p>	<p>学校の適正規模に関する基本方針についてご質問をいただきました。私が先ほどごあいさつの中で、考え方について触れさせていただいたところですが、この基本方針を平成30年度に策定したわけですが、この統廃合、施設の再編に関するアセットマネジメントと学校の適正規模というのは、別のものという風に考えております。まず子供たちの学習環境にとって、どういった環境が一番良いかということで、この学校の小規模化、クラス数が減ってきている、単学級が増えている、単学級の中でも小さなクラスが増えているという状況の中で、公共施設のマネジメントと同じく、文科省でも学校の規模適正化を進めており、全国の各市町村でも始めております。この適正規模の基本方針は、平成29年度と平成30年度、2</p>

	<p>年間かけて策定いたしました。この中では、市だけではなくて、先ほど申し上げましたように、保護者の方、これには小規模の学校も入っていました。それから、学校の校長や、有識者ということで、地域の代表の方とか、さまざまな市民の方に御参加いただき、審議会を作りまして、この適正規模について、議論をしていただきました。この基本方針の中では、小規模化のメリット・デメリットということで、お話がありましたように小規模化はイコール教育環境が良くないということではなく、もちろん小規模の学校にもたくさんのメリットがあります。それからデメリットもあります。そういったものを出していただいたり、あとは保護者の方にもアンケート調査を行ったりと、様々な議論をした中で、適正な規模、この言葉は国でも使っている言葉でありますので、同様の言葉を使っております。子どもたちの学習環境はどういうものが良いかというものを、基本方針にて定めたものです。この学校の統廃合を公共施設全体の中に組み込まれておりますので、同じ考え方で人口が減るので、財政的に厳しいので学校を統廃合すると捉えられたようですが、そういうことではなく、結局人口が減っていくというのは同じ流れになりますので、学校の小規模化をどうしたらよいかという観点で、教育的な観点で作成したという風に考えております。教育委員会では、適正規模審議会を経て、市民の方のパブリックコメントなども実施しまして、皆様から意見をいただいたうえで、基本方針は平成 30 年の 11 月に策定をいたしました。この教育的な観点から考えた基本方針を基に学校統廃合、この中には、メリット・デメリット、先ほどクラス替えができる規模や部活のことしかないというお話もありましたけれども、主には、2つは大きな理由です。学校教育の立場からはこれから学校教育課長から改めて説明をさせていただきますが、教育委員会といたしましては教育長の考え方のもと、この基本方針を作りまして、学校も公共施設ではございますので、この再編方針案の中で、併せて学校規模の改善もしていきたいということで同じ説明会の中で説明させていただいております。ちょっと誤解を招いてしまう部分があると思いますが、そういった考えで教育委員会のほうでは進めております。</p> <p>まず適正規模という言葉ですけども、国のほうである言葉でして、文部科学省のほうで平成 27 年にも小学校・中学校の適正規模、適正配置に関する手引き等出されておりました、熊谷市もこのような手引きに基づいて、適正規模の方針を作りました。それで小規模校の良さというのは私もわかります。子供たち一人一人によく目が行き届く、また、家族のようなあたたかさみんな仲良くという、私自身も小規模校に勤めたことがありますので、小規模校の良さというのはよくわかりますし、また、教育というのはお金がないから、学校をなくそうとかそういうものじゃないだろう教育っていうのは国の 100 年後を左右するような非常に重要なもの、お金の</p>
--	---

市職員

<p>市民</p>	<p>あるなしじゃないという、それぐらい国家が繁栄するのも衰退するのも教育によるということは十分私たちもわかっております。ですけれども、現状このままいくと、複式学級の学校も出てくる、一つのクラスに二つの学年が入っている学級も熊谷市の学校の中で出てくる、単学級ばかりの学校が増えてくる、そういった現状を踏まえてですね、やはり、小規模校の良さ、それと適正規模の学校の良さ、両方あるのですけれどもどっちがより望ましいか、よりベターかということを考えた場合に、現状ではわたくしたち教育委員会というか、熊谷市のほうでは、適正規模に向けて統廃合を進めていくほうが子供たちにとっていいのではないかという現時点での考えでこのような案をお示ししているところでございます。以上です。</p> <p>先ほど教育は将来につながっているというところでは、とてもやっぱり大事なことだなと思います。そう思っているのならば過疎化につながっていく小学校統廃合となったときに、遠くに行かなくちゃいけない、スクールバスで行かなければならない。子供の育ちというのは子供と大人の間わりの中で育っていく、行き帰りの中だって自然の中だって、周り近所の人が畑仕事をしている何をしている、そういう自然を見ながら育っていく、そういう育ちもあると思います。スクールバスに乗ったら着く、そういうことで本当にそれでいいのか。それで若い人たちが本当に遠くになっていく中で、ここで産み育てていく、そういう希望を持っていくかっていったら、やっぱり過疎化につながる、そういう方向にもなるんじゃないかなって。そしたらもっと子供たちが減っていく。減っていくんじゃないか増えるためにはどういう施策をしたらいいか、やっぱりこういう事業をしようよと、本当に地域の人たちとみんな語り合いながら、行政と一緒に手を組みながら進んでいける、そういうことが大事じゃないかなって思います。</p> <p>市田小学校の自校給食について、食育って食べることも教育ですよ、そこのところが見える温かい、本当にそういうものって心も育つんです。私は保育園に勤めていました。子供たちが60人程度のところでしたから、1クラス10名前後ぐらいですから、子供たちに関われる。少ないから育たないとか、適正化といって効率よく施設を集中させるっていうところは、やっぱりこういう子どもが育つっていうのは違うんじゃないかって、私思います。だから統廃合ではなく、地域の人たちがより行きやすい施設ですよ。年を取れば歩いていけない。近所の人たちと連なっていく時、スクールバスじゃないけど、そういうバスで通うようになるのかっていうところも、あるんじゃないかなって思ったんです。いろんな公民館活動も活発にやってますけど、施設が少なくなり、遠くなれば遠くなるほど行きづらくなる。説明ではこれも減らしていきます、これも減らしていきますとのことだが、本当にみんなの意見はどうなのかというところを考えて、</p>
-----------	--

市職員	<p>子供もここは自然が良くていいよね、大里地区に住みたいよねっていう場所を私たちは求めていきたいなって思います。だから統廃合についての説明が速くていろいろわかりませんでしたので、私が全部理解できているわけではないですけども、不十分なところについて、またもう一度聞きたいなと思ったんですけど、みんなの意見をもっともっと聞いてください。よろしくお願いします。</p> <p>スクールバスについてご説明させていただきます。子どもたちの体力面や安全面を踏まえ、スクールバスの導入を考えております。ただ、バスに乗るから体力が落ちてしまうという面も心配されるところもありますので、どういう風にスクールバスを運行するかというのは、これから皆さんと話し合いながら決めさせていただければと思います。例えば今までどおり、市田小学校に集まってもらって、そこから行くのが良いのか、そういうことをすると遠回り、逆方向になるお子さんたちもいらっしゃると思いますので、どういう風にスクールバスを運行するかというのは、今後皆さんと話し合っただけさせていただければと思います。市田小学校地区につきましては、8月の中旬ぐらいを目途に地域の説明会というのを改めて、学校の統廃合を中心に説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
市職員	<p>子育て支援の部分のお問い合わせについてですが、本市としましては人口減少の関係で一番弱い部分というのはやはり出生率の部分です。熊谷市って人口が減っているって言われてますけど、実は転入と転出、7000人ぐらいずつでそんなに差がないのですが、何が一番減っているかというやはり、出生率が低い、ここが熊谷のウィークポイントと認識しているのですが、そういった部分での支援、子育て・出産支援の部分が必要ということは自覚をしております、今までにやっています施策ですと、不妊治療費の支援などいろいろやっているのですが、一番大きいのは子供医療費の無料化の拡大ということで、高校生までご利用されている方もいると思うんですが、これは県内の自治体の中で先進的な取り組みとなっております。それから児童クラブのほうも、毎年整備しております、少しでも子育てをしているお父さんお母さんの支援になればということで取り組んでいるところでございます。</p>
市職員	<p>食育についてお答えいたします。先ほどの方がおっしゃられていたのが、自校式は学校で調理しているから、食育上好ましいということだと思います。確かに食育を推進していくうえで自校式の利点というのも認識しております。しかし現在の子供の健康課題には朝食の欠食、肥満、痩身などがあります。そのような状況を踏まえまして、学校給食におきましても、</p>

<p>市民</p>	<p>食育を推進していかなければなりません。このような観点から食育の拠点となる施設として、給食センターを提案していきたいと思います。以上です。</p> <p>私の知る限りではヨーロッパの国々では1クラスの人数が25人1学級とか、22人1学級とか、1クラスの規模がどんどん小さくなっているんです。アメリカもかなり州によって違うんですが、1クラスの人数が少なくなっています。ですから今説明があったように学校規模を学年のクラス数で考えるというこの考え方、僕はうまくないという風に思っています。学校統廃合については、するべきではないと私は考えています。いま日本の子供たちが一番大変なのはいじめ問題だとか、また家族、またいろいろな関係の中で虐待を受けているとか、そういうところの中で子供たちが今、非常に生きづらくなっているわけです。日本の子供たちが大変だ大変だっているのが、国連の子供権利委員会からずっと長く指摘をされています。どういう風に指摘をされているかというと、高度に競争主義的な学校環境が就学年齢にある子ども間のいじめ、精神障害、不登校、登校拒否、中退および自殺の原因になることを懸念すると、また、過度に競争主義的な環境を生み出す規制的な結果を避けることを目的として云々といって、日本の学校教育は非常に競争的だと、このままでは危ないぞ危ないぞ危ないぞということを今回で5回目の指摘をされているんです。その中心的なのは、競争的な教育だといっているんです。どうも今までの説明を聞いていますと、学校の規模が小さくなると、つまり小規模学年、単学級みたいになると、競争する心がなくなっちゃうから、みんな集めてみたいにこの説明聞こえるんですね。そうじゃなくて、一人一人を丁寧に面倒を見る、そういった子供たちの悩みや辛さや生きづらさをちゃんと担任が日記だとかいろいろこの問答で獲得しながら生きる力をつけていくというのが、日本の教育で一番しなくちゃならないことです。それを全部集めて合併させればいいというこの考え方、大きな間違いです。ですから、やはり日本も政府をはじめとして国連子ども権利委員会の指摘を全く無視している。もう過去今まで3回出て、それを全く無視していて、それで今年の2月に4回目と5回目の勧告が出されているんです。90項目からにわたって日本の学校教育は危ないぞ、日本の子供は大変だぞって、それがですからティーンエイジャーから30代まで、子どもたちの自殺が一番の死因のトップなんです。ですから、改めて子供たちを丁寧に、100年かかって、本当にしっかりとした人間に育てて、産まれてこないほうが良かったという子どもをなくしていく、自殺をしないでも、産まれてきてよかったという人間を育てていく教育をしてもらえませんか。私は強く思います。教育を競争でやるのではなくて、勝ったものが勝ち誇って、負けたものががっかりくるのではなくて、出来が良くなかった、いい点数をとれなかったんだけど、</p>
-----------	--

	<p>丁寧に教えたら学力はつくという、教育を本格的にやってほしい。それは今のいわゆる OECD でやっている学力調査なんかで言うと、日本の子供たちは学力はうんとできる子と学力をはなからあきらめちゃっている子供の2極に分かれているんです。ですが、本当に下の、よくわかっていないわかんない子供たちをちょっと上げるだけで、学力っていうのは上がるんです。平均とすれば、ですから本当に苦しんでいる子供を応援できるような学校にしてほしい、そのためには小規模校であろうと、本当に真剣になって教師たちが、頑張れる、そういう環境を作してほしい、そんな風に思います。以上です。</p>
市職員	<p>大変貴重なご意見ありがとうございます。日本の教育に関しまして、マイナス面、過度の競争に陥りすぎているとか、クラスの人数が多い、いじめ虐待の問題、いま本当にまさにいろんな問題が日本の学校の中で起こっております。そういうところに関してはむしろ小規模校のほうがいいのではないかと、というような、なにも無理に統廃合する必要はないのではないかと、貴重なご意見だったなという風に思います。ご指摘の通りなんですけども、単に競い合うために、統合したほうが競い合える、それも一部です、競い合えるというのは、いっぱい的人数の中で子供たちがいろいろな人に出会い、いろいろな考えに触れ、コミュニケーション能力がつけられたり、学びあえたり、教えあえたり、そういうプラスの面も、何人かの学校よりかは、そうやっていっぱいの子供たちの中で、過ごすという、一日の6時間、7時間学校の中で過ごす、そういったときに、いろんな沢山の周りの子供たちと過ごせるというそういう良さ、そういう面もあると、いずれにしろ統合しても、いじめ、虐待、過度の競争そういうことにはないように、当然熊谷市の学校も取り組んでいくことには変わりはありませんのでご承知おきください。</p>
市民	<p>費用の面でちょっと良くわからなかったところがあるので教えてください。まず49億円ですか、実際かかっている状況の中で、2015年から約80億円ぐらいかかっているようなグラフになっています。これずっと赤字になっているってことですかね、特に2019年なんか120億かかっているグラフになっています、ワールドカップとかあるから仕方がないのかもしれないですけど、費用面でちょっと説明と合わない部分がありましたのでそこを教えてください。それとあと、135億今後かかるというところなんですけど、それに対して今回見直しをやったことで効果がどれぐらいあって、どのくらいの試算で推移できるのかってのが今回一切説明がなかったんですね、そのところもぜひ教えてください。</p> <p>それとあと、たくさん質問してしまって申し訳ないのですけれども、学校を今回統廃合で減らしていくってところですけども、今回触れら</p>

市職員	<p>れていないのが、災害とか起きた場合の避難場所という観点で今回一切説明がないですね、そういうところも含めて資料に載せていただきたいと思ってます。それとあと、プールのところ、今後減らしていくってことなんですけども、埼玉県としてはプールの保有率っていうのが90何パーセントだとかで、日本で一番っていう形をとっていたと思うんですね、教育としては非常に水泳に力を入れていたと思うんですけども、これは方針をもう変えていくという形になるんですかね、非常に残念に思います。費用の削減から言いますと、小学校と中学校を統合して一つの学校で運営するとかですね、そういう方法も取れると思うんですけど、そういう検討も含めてなんかやられているのでしょうか。</p> <p>もう一つ最後なんですけども、大里の直売所を今回移転とかなくす方向といわれているんですけども、こういうところも現状、赤字なんですか、私しょっちゅう行くんですけども、非常に、たくさん人がいて、売れているように思いますが、この施設自体は、農家の人も物を売るとかですね、生計を非常に立てているところと、あと近くに買えるところがあって非常に重要な施設だと思っています。そこをちょっとなくすところはもう一回ちょっと考えてほしいなと個人的には思います。以上です。</p> <p>コストや費用推計などについて申し上げます。資料1の15ページのグラフについて、こちらは平成26年に策定した基本方針からの抜粋で、その時の推計のグラフになっていまして、2015年から後ろは当時の時点での推計となっています。本日の説明会ではハコモノ、学校ですとか公民館ですとか、ハコモノの関係でご説明申し上げているんですけども、こちらのグラフの方はインフラ、道路や橋梁、上下水道ですとか、そういったものも含めたグラフになっています。インフラ関連がグラフの下の方に同じ金額で、平均値という形で載っております。本来はガタガタのグラフになるんですけども、詳細なデータが把握できないところもございまして、平均値を載せているという形で、更新投資が足りていないように見えるんですけども、実際上の運用で言いますと、耐用年数というのを国のほうで、総務省、今のふるさと財団というところが引き継いでいますが、そちらを参考に計算した結果でして、実際には40年、50年という耐用年数が来ても直ちにそこから危険になるとか、使えなくなるというわけではなくて、通常は若干もつというのが現実でございます。それを踏まえますとこの部分というのは、今後速やかに更新をした方がいいけれども、順番待ちの状態にあるというように認識しております。理想的にはこのグラフのようにどんどん更新していったほうがいいというものもあるかと思いますが、非常に大変な費用が掛かるので、最も危険なところとかは優先的に対応しているんですけども、そのようにできるところから、施設の老朽化、腐食の状況などを見ながら、対応しているのが現状であると考えております。</p>
-----	--

	<p>避難所の関係ですけど、学校統廃合した後も、体育館だとか、地域の貸館の部分であるとか、各学校などで基本的に残していく方向で考えています。避難所の関係を所管しております危機管理課の者が本日こちらに入っておりませんので、この場での答えはできませんが、本今日別のところでも同じような説明会をやったんですけども、そちらでも避難所のご質問とかご意見がありましたので、こちらの会場でご意見・ご質問いただいたものと別の会場でご意見ご質問いただいたもの、また、説明会以外にも電子メール等でご意見いただいているものもありますので、そういったものを一覧表の形できちんと回答をまとめまして、HP等で今後公表していく予定ですので、詳細のほうはそちらのほうで答えさせていただければと思います。あと、農業振興の関係の施設は赤字なんでしょうかというご質問がありましたが、基本的に公共施設で黒字というのはなかなかないんです。ほとんど全部赤字です。熊谷市の施設で最も黒字に近い施設として、妻沼にある道の駅が挙げられます。他と比較すると良い経営状況となっております。大里の施設などは他の公共施設に近いといえますか、施設によって程度の差はありますが、基本的には赤字という風に認識していただいでよろしいかと思います。</p>
市職員	<p>私からはプールの校外方式についてご説明させていただきます。学校のプールは廃止しますが、プールの授業をやらなくなるわけではなく、校外方式になりまして、アクアピアとか、民間の水泳スクール等を使って授業を行いたいと考えています。メリットとしましては、室内ですから、天候に左右されないというのがありますし、春先から年内ぐらいまで、幅広いシーズン使えるというところもメリットとしてあります。校外で授業を行った場合でもしっかりとカリキュラムを組みまして、ほかの授業等にも影響が出ないようにやっていきますし、まったくやらなくなるわけではございませんので、ご理解いただきたいと思います。</p>
市職員	<p>続きまして学校の小中一貫校を考えていないのかというお話がありました。熊谷市の適正規模の基本方針の中でも、適正規模を進めていくにあたってこの3つの方策、1つは統廃合、1つは小中一貫校のさらに発展した形の義務教育学校、それから学力の見直し、学区の見直しも統廃合をするにあたってどうしても出てくると思うんですね。このところはやっぱりおかしいと、この学区はどう考えても変えたほうがいいんじゃないかというそういうところも部分的に出てくるという風に考えていますので今後統廃合を進めるにあたっては必ず話題に上るし、よく地域の方または保護者とよく相談をしながら、学区については決めていく。それとまた、小中一貫校や義務教育学校につきましては、研究中でございます。今回の案には載っていませんけども、現在研究をしています。今年、埼玉県春日</p>

<p>市民</p>	<p>部市で、江戸川小中学校という名前の学校が一つできました。9年間で教育をする。6年生の次は7年生、8年生、9年生、校長先生も一人しかいません。9年間で一つの学校ですので校長先生も一人。そういう学校ができて始めております。こちらはまだそういう学校の情報を仕入れたりしながら、研究をして、今後もし熊谷市内でできるということになれば、そういうところも計画の中に入れていくかどうか検討しているところでございます。</p> <p>いくつかお尋ねしたいんですが、まず資料2(6)消防施設という点でございます。まあこの、今回の計画では江南、大里分署を吉岡地区に集約するというんですか、そこにもっていくという説明でありました。大里分署は地域の消防機能、それから、救急機能などですね、そういう風に多く活躍していただいております。この現状を見てみますと、この地域にあの分署ほがないと大里の南地区、特に市田・吉見地区にそれがないということはですね、高齢化社会、これから高齢化社会に向かって進んでいるわけですが、ますます心臓病になり、突発的な事故なり、ますますそういうものが、多々予想されるという中で、救急機能をこの地域から取り上げ、吉岡にもっていく。これは大きな議論になると思うんです。吉岡に持っていくというのではなく、それは吉岡地域の中で作ってくれというのが私の意見です。この地域にも残してくれ、消防の再編成は対象外にしてくれと、この地域からは分署を取り上げないようにお願いしたいです。</p> <p>もう一つは学校教育の話です。これについては先ほど説明の中で国の通達の話が一部出ておりました、どうもこの公共施設の再編という話に学校教育の、これが公共施設として含めるのにはちょっと無理があるのだろうという風に私は思います。学校の話はまた別の話で展開してほしいという話で、私の提案とさせていただきます。</p> <p>もう一つは例えば大里行政センターの大きな庁舎が空くとかそういう状況はいくつか出てくる、そういうことになるとすれば、これは提案ですけども、市として運営する介護施設等に転換するという風な方針もあるんじゃないかと思います。熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取り組みという大きな課題があるわけですけども、熊谷市の現状と未来および将来、その文言字がないということ自体、この計画がやや問題があるんだろうと思います。</p>
<p>市職員</p>	<p>貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございます。ご質問がございました、大里地区の救急体制はこのまま存続し、吉岡地区に新たに防災拠点施設の消防署、そういったものを作ってもらいたいというご意見でございました。大里分署、江南分署につきましては、資料にも記載してございますが、共に昭和48年2月に建築し、鉄筋コンクリート造の2階建てで</p>

	<p>す。当初は、水槽付きポンプ自動車1台のみでした。その後、昭和63年3月に救急車が配備されました。大里地区の方はご存じかと思うんですけども、大里地区の水害が起きたのが昭和57年、この当時を振り返りますと、私は拝命して間もなかったんですけども、大里地区の行政センター、消防機関、駐在署の全てが浸水し、ボートや、筏船に乗って水が引けるまで大変な思いをしたという記憶がございます。さらにハザードマップによりますと、想定される水位が2mから5mという水害に見舞われる予測があります。従いまして、この大里の今の現場に建て替えというのは厳しい状況ですので、移転が必要という考えでございます。消防署の統廃合につきましては、平成25年5月に、熊谷女子高校の東側に中央消防署という、大規模な消防署が建設されました。その時には、幹線道路にありました荒川分署を統廃合しまして、救急車2台配備の大きな消防署を建設しました。結論から申し上げますと、大里・江南分署は今の建屋が古く、雨漏りはする、亀裂は入る、そういった現状でございます。耐震基準を満たしておらず、移転しかございません。また、2つの分署をそれぞれ建設するより、コスト面、そういうものを考えますと、吉岡地区周辺に一つの大きな消防署庁舎を建設することで、建設費が安価となり、火災や救急、特殊な災害に対しても初動の対応が複数隊でできる防災拠点施設を今現在検討中でございます。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
<p>市民</p>	<p>消防施設のことですけれども、それについてはよく理解はしています。ここの中を再編整理ということを入れていただきたいと、この資料1の表にですよ、そういう考えを載せてほしいということで私は質問しているわけですよ、これは再編だけではなく整理をするということだけじゃない、行政センターも相当ガラガラの状態で議会棟も空いているかと思えます。そういうものを考えた場合にですね、そこだけで再編ということをするのではなく、こちらを整理しながら、個々の地域の救急機能を確保してくれと、特に救急ですよ、水害とか災害とかそういうんじゃないんです、日常の皆さんが死んでるような脳梗塞なりいろいろな面で、そういう救急車に厄介になる状況はどんどん出てくる、当面今課題となっているのはそれと介護施設の話でございますので、あともう一つ先ほどから申し上げているように、小中学校、特に小学校の再編については、公共施設と考えないで、これからは除外して、再度考えていただきたいということが要望でございます。よろしく申し上げます。</p>
<p>市職員</p>	<p>学校教育と公共施設の関係というのは、一緒の説明で、一緒のようにお聞きになられたかと思いますが、ここの部分は整理したいと思います。また、公共施設の活用という部分は、具体的には決まっておりますが、御意見として伺いました。</p>

<p>市民</p>	<p>安倍内閣ができたときにですね、安倍さんはこう言ってたんですね。確かに少子化問題については政府一丸となって十分な検討をしていくと聞いていたんですが、私は思うんですけど、安倍さんというのは常に、安倍さんの言うことは菜っ葉の肥やしだと思っているんですね。菜っ葉の肥やし、要するに掛け声だけだと、もうこればかり思っているんですけど、ところが、そこで安倍さんが任命した内閣府の特命担当大臣、今は宮腰 光寛という人が少子化大臣になっていると思うんですが、この大臣はですね、少子化問題についてどう思っているのかというのは全く国会では聞いたことありません。そういう意味では担当大臣というのは肥やしにもならない。まさに糞の役にも立たない大臣だなと私自身思っています。結局政府は少子化問題については各都道府県や市町村に全部丸投げしてきたんじゃないかということで、今回そういった再編の計画案がでてきたんじゃないかと、私は穿った見方をしています。ですから、時代の流れで、確かに子供は少なくなった。それじゃあ小学校・中学校を統合しようじゃ、そういう短絡的な問題じゃないと思うんですよね。熊谷市として教育委員会や今日も議会の議員さんがお見えになっていることですので、熊谷市としていかに少子化問題をどう解決していくか、深く検討していくのが肝要だと思うんですが、これは私があくまでも意見として申し上げました。失礼しました。</p>
<p>市民</p>	<p>今日の資料を見て、単的に言いますと、適正配置といいますけども、小中学校の数を減らすということじゃないですか。果たしてそれでいいのかって、私3つばかり質問をしたいと思います。1つ目は学校区単位でいろいろな行事や自治会、民生委員の勉強会、それから防災訓練等をやっていますけど、今荒川南に5つ小学校があって、それぞれの活動をしていますけど、これが3つになると、果たしてどういうふうによつたらいいんだろうか。今までの地域コミュニティというものが崩れませんかという疑問なんです。これは今ある人が言いましたけども、地方創生って国は言ってますけども、果たして、こういう地域コミュニティが崩れていったときにやっぱり今小学校区でやってきたコミュニティを全部崩れてしまう。これをどういう風にやっていくのか、これを市の考えを1つお願いします。</p> <p>それから2つ目は子育て支援、この資料にもありますけども、いろいろ保育園も統廃合し、蚕業試験場跡地とってますけども、市の真ん中ですよ、果たして、利用者が使いやすい施設なのか、どうもこれはさらに疑問が増えたなと感じがします。こういうことでやると、荒川南っていうのは5つの小学校がそれぞれ100年以上の歴史を持っているんですよ。それをなくしたり、果たして生徒数が多少減ったからってこれをやること自体、ちょっと私疑問を感じるんです。こういう事業をですね、近隣の深谷・</p>

市職員	<p>行田・鴻巣ではどういう風に取り組んでいるのか、わかるようでしたら教えていただきたいと思います。それから、アンケートとったといたいますけども、アンケート取った時の結果 23 パーセントというお話がありましたけども、一般的にはアンケートというのは 50 パーセント超えてないと使えない、アンケートやっただけで言えないと思います。統計上やっただけでも使えない資料というけども、あんまりこういうところに載せるのは適切ではないと思いますがいかがでしょうか、以上です。</p> <p>一番最初のご質問で学校区単位の活動に関しましては今校区連絡会で皆さん活動されてますけども、そちらのほうの活動はそのままでも活動していただければと思っています。それは学校に地域会館を設置して地域の方々の活動を確保したいというのが今回の案です。それと蚕業試験場跡地については市有地であります、この活用というのも考えて、子育ての総合的な施設を検討しているところです。ただ、課題もあります。まだこれは案という段階で考えているところです。あと、行田市や深谷市の状況とありますが、まずこちらの計画・再編を視野に含めた個別施設計画というのを国のほうで作るよう要請しておりますが、作る責任は市町村です。それなので今全国的にどこでもこの作業をしているところです。ただ、施設の再編につきましては、それぞれの自治体でまちまちと思われま。まだ情報は入ってきません。</p>
市職員	<p>近隣市の状況ですけども、行田市も熊谷と同様に統廃合を進めておりまして、行田は小中一貫の学校を中心に進めていると聞いております。また、深谷市は統廃合の予定等はないと聞いております。鴻巣市は全体でやるというよりは、一部の学校の統廃合を検討しているというのを聞いております。以上です。</p>
市職員	<p>先ほどアンケートについてご指摘がありましたので、お答えいたします。たしかにこの 2017 年度のアンケートの回答は、もうちょっとご回答いただければと思ったのですけれども、少ない回答状況でした。ただし 50 パーセント以下はというお話がありましたけども、少ないからと言って信用できないというわけではなくて、統計学上の難しい計算に当てはめると、90%半ばぐらいの信頼性を得ているので参考になるということで、資料として載せております。あとアンケートについて、平成 26 年と平成 29 年で 2 回行っておりますけども、これもこれでおわりではなくて今後も引き続きやり方の工夫もして、できるだけ多くの方々にお答えいただけるような形に、1 回目は 18 歳以上の市民に、アンケートをやったんですけど、2 回目は中学生以上の市民に、若い世代の声も聴きたいということで中学生以上の市民の方にやったりしました。ただ、も</p>

市職員	<p>う少し答えていただけるような工夫を今後ともしていきたいと思 います。以上です。</p> <p>今日は長い説明の後、限られた時間の中のご意見・ご質問となり申し 訳ございませんでした。今日初めてご覧になったかと思いますが、こち らのほうのご意見やご質問については、次第の一番下にあります施設マ ネジメント課の方にお電話またはメールにてお聞かせください。また、 このエリア市民説明会は、市内5エリアで行いまして、今日が最後にな ります。また、学校統廃合については、学校が統合してしまう地域を優 先的に地域説明会を実施しております。学校統廃合については、地域説 明会を中心に実施していきます。本日はありがとうございました。</p>
-----	--